
イナズマイレブン高校サッカー

ピイス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イナズマイレブン高校サッカー

【Nコード】

N6606Y

【作者名】

ピース

【あらすじ】

高校に入学した円堂達の熱いサッカーと友情の物語

入学式！いきなり入部テスト！？

イナズマジャパンがFFIで優勝して・・・

遂に円堂守は高校生になりました。

今日がその入学式。

円堂「よう、豪炎寺！風丸！一之瀬！吹雪！」

同じ高校に入学したのはこの5人。

円堂「放課後、サッカーやろうぜ！」

その言葉にクスリと吹雪は笑った。

吹雪「相変わらずだね、円堂くん。」

一之瀬「入学式終わったら、部活見学だってさ！皆で見に行かない？」

風丸「ああ！」

豪炎寺「どんな人がいるか、気になるな。」

円堂「よし！サッカーやるぞー！ー！ー！！！！」

入学式が終わり、皆でサッカー部の見学をすることになった。

円堂「あ！秋！夏未！フユツペ！」

秋「円堂くん、やっぱりサッカー部ね。」

冬花「私達も、サッカー部の見学をしようかなって思ってたところなの！」

夏未「この雷門高校は、私のいところが理事長をやっているわ、皆すぐに取り計らえるわ。」

円堂「へえ……。よくわかんないけどよろしくな！」

ピピーツという笛の音。

円堂「お、試合だ！」

「如月！」

ボールが如月という、背番号9番、キャプテンに渡る。

如月「ハヤブサショット！」

得点した。

円堂「スッゲー！！」

吹雪「皆、楽しそうにサッカーやってるね。」

円堂「ああー……！俺もサッカーやりたいサッカーやりたい！」

バタバタ歩き回る円堂。

はしゃいでいる。

試合見てかなり興奮しているらしい。

豪炎寺「落ち着け、円堂。」

「あ、あれは・・・イナズマジャンプの！」

先輩に声をかけられた。

「キャプテン、彼らあの・・・

如月「イナズマジャンプか。」

円堂「はい！円堂守です！」

豪炎寺「豪炎寺修也です。」

吹雪「吹雪士郎です。」

一之瀬「一之瀬一哉です。」

風丸「風丸一郎太です。」

如月「俺は雷門イレブンのキャプテン、MFの如月星だ。」

彗星「俺は、FMの彗星和人……まあい……。」

と去っていった。

如月「悪いな、あいつ、かわりもんだから。」

円堂「いいです、続けてください。」

一通りの自己紹介が終わり、入部希望する。

如月「やっぱり、入部希望か……。だけど、入部するには入部テストが必要だ。」

やっぱり……と思わず笑う。

円堂「でも……！サッカーやりたいんです……！」

彗星「フン、世界一だかなんだか知らないが、高校サッカーをなめるなよ……。」

するとマネージャーらしき人が走ってくる。

「如月！今日は帝国との試合だろ！そんな暇ねえだろ……！」

円堂「帝国……？」

風丸「帝国ということは・・・!!」

帝国が到着する。

たくさんの部員の中に・・・

円堂「鬼道! 佐久間! 源田! 不動!」

声をかけられ、止まった。

鬼道「円堂・・・!」

円堂「また一緒に! サッカーやろうぜ!」

鬼道「ああ・・・!」

佐久間「・・・のまえに入部テスト合格しなきゃね!」

不動「大丈夫かなあ、鬼道クン・・・妹がないしなあ。」

ヘラヘラと鬼道をおちよくる不動。

鬼道「黙れッ！」

不動「なあにムキになってんだよお……。 (ニヤニヤ」

源田「おいおい、やめろよ……。」

二人の騒ぎを静める源田。

円堂「ううーっ!! はあやくサッカーやりてえ!!」

「円堂くん!!」

円堂「……。っ!! ヒロト!! それに飛鷹!!」

そこには帝国の服を着た基山ヒロトと飛鷹征矢。

円堂「お前達も帝国に……。」

飛鷹「はい、円堂さん。」

基山「キミと戦うことを楽しみにしてるよ。」

円堂「ああ！」

「一年！」

鬼道「なんですか？夢見キャプテン。」

背番号9番のキャプテン、夢見。

夢見「入部テストだ、雷門の一年と戦いぶりを審査したい。」

佐久間「雷門か、それも一年……。」

不動「おもしれえ……。」

基山「さっそく円堂くんと戦えるのか……。」

雷門フォーメーション

このフォーメーションはフォワードが2人、ディフェンダーが1人、ミットフィルダーが2人、キーパーの6人である。

フォワード 豪炎寺・吹雪

ミットフィルダー 風丸・一之瀬

ディフェンダー 如月

キーパー 円堂

帝国フォーメーション

フォワード 佐久間・基山

ミットフィルダー 鬼道・不動

ディフェンダー 飛鷹

キーパー 源田

キックオフは豪炎寺。

佐久間「行かせるか！」

佐久間が行く手を阻む。

豪炎寺「く、一之瀬！」

高くボールを蹴りパスした。

佐久間「しまった！」

基山「くう！」

鬼道「シュートは打たせない！」

鬼道と不動からマークをかけられた。

一之瀬「ダメだ・・・これじゃあパスできない！」

吹雪「一之瀬！！」

不動のとなりを奪う吹雪。

一之瀬「よし、吹雪！」

吹雪にパスした。

鬼道「行かせるな！！」

吹雪「ウルフレジェンド！ウオオオオオオオ！！」

飛鷹「はああああ！真空魔V3！！！！」

ボールを止まる飛鷹。

吹雪「真空魔がパワーアップしてる・・・。」

円堂「ドンマイだ！吹雪！」

吹雪「ああ！」

飛鷹「鬼道！」

鬼道にパスを渡す。

鬼道「やるぞ・・・。」

アイコンタクトを送った。

鬼道「基山！」

基山「よし！」

パスを繋いだ。

如月「行かせるな！」

風丸「はい！」

しかし基山は風丸と如月をかわした。

如月「く、これが世界レベルか・・・！」

基山「円堂くん！キミと戦うのが楽しみで・・・楽しいよ！！だから・・・全力をぶつけられる！！キミなら・・・」

流星ブレードV3！！！！」

流星ブレードを放つ。

円堂「ゴットキャッチ！！」

流星ブレードを止めようする。

円堂「んぐがあ・・・ああ・・・。」

流星ブレードがそれた。

風丸「まずい！間に合わない！！」

円堂「正義の鉄拳！！」

弾き返した。

風丸（でもおかしい・・・。基山がそんな無計画ことをするか・・・？流星ブレードV3は円堂に止められることを予想できるはず・・・は！！まさか・・・）

振り向くと

風丸「鬼道と不動と佐久間がない！？しまった！！円堂ーーーー！！！！！！」

弾き返したボール。

鬼道「もらった！」

円堂「基山を囷にして連携技を放つつもりだったのか！！」

鬼道・不動・佐久間「皇帝ペンギン3号！！！！」

ドーーーーーン！！！！

円堂「ああ！」

点をとられた。

如月「今のところ・・・いいところ無しか・・・これじゃあ入部は難しいな・・・。」

円堂「っ・・・！！！」

入部なるか！？雷門VS帝国

円堂「まだ一点だ！挽回できる！！皆ーーーーっ諦めるなーーーーっ
！！」

豪炎寺「ああ！！」

豪炎寺が攻める。

不動「おおとお、行かせないぜ！

おらよ！」

体制を素早く立て替え、スライディングをした。

豪炎寺「何！？」

ボールを拾う鬼道。

鬼道「行かせてもらう!」

風丸「そうはさせるか!」

鬼道は風丸にマークされた。

鬼道「吹っ飛ぶことを覚悟するんだな!! 真・イリユージョンホル!!」

必殺技を放ち、風丸を吹き飛ばす。

風丸「かかったな!」

鬼道「!?!」

そのままの体制で・・・

風丸「風神の舞!」

鬼道からボールを奪い、かわす。

鬼道「な、何!?! しまった!! 飛鷹!!」

飛鷹「点は入れさせない!」

風丸「豪炎寺!!」

バックパスをした。

豪炎寺「ああ!!」

豪炎寺「マキシマムファイア!!!!」

飛鷹「はああああ!!真空魔V3!!!!」

ドドーン!!!!

真空魔を打ち破った。

飛鷹「うわああ!!」

ボールはそのままゴールを突き刺す。

源田「く・・・。」

円堂「よっしゃ!!一点だ!!」

鬼道「仕方ない、あの必勝法を使うしかない・・・基山！」

基山「うん、それしかないね。」

基山がボールをもち、攻めてくる。

如月「次は行かせない！」

如月が立ちはだかる。

如月「雷門のキャプテンとして・・・、世界といえども負けられない！！！」

基山「行かせてもらいます！！天空！！！」

空へとボールを蹴った。

基山「落としイイー！！！」

如月をボールでかわした。

如月「な！？・・・しまった！！！」

基山「流星ブレードV3!!!」

円堂「おおおおっ!!! ゴットキャッチ!!!」

流星ブレードを受けとめる円堂。

円堂「ぐう・・・あ・・・ああ・・・。」

ボールがそれはじめる。

鬼道「お前の負けだ! 流星ブレードで方向をそらし、何もしなければ流星ブレードが突き刺し、正義の鉄拳で跳ね返せば、俺達の皇帝ペンギン3号が突き刺さる!」

円堂「俺・・・は・・・最後の・・・可能性を・・・あき・・・ら・・・め・・・な・・・い・・・!!」

如月「・・・。」

彗星「フン、何があきらめないだ……。勝てない試合に……。余計な力を使ってなんになる……。」

円堂「うおおおお!!」

流星ブレードのボールを自分の体重をかける。

秋「!!え、円堂くんそんな……。そんなことしたら……。体ごと飛んじゃう!!」

冬花「そんなことになったら、サッカーが……。」

夏未「円堂くん!!これは入部テストなのよ!!!!どうして……。そこまで……。!!!!」

円堂「ぐぐぐぐぐ!!」

秋「ダメエ! 円堂くん!!」

夏未「やめなさい!! サッカーがなくなる・・・。入部なんて私を取り払う!!!! あきらめなさい!!」

円堂「俺は・・・。」

一之瀬「円堂!!」

風丸「円堂!!」

吹雪「円堂くん!!」

豪炎寺「円堂っ!!」

円堂「負けない!!そして・・・諦めない!!!!うおおっ!!」

ドーン!!!!

静まり返るグラウンド。

鬼道「円堂・・・!なんて無茶を・・・。」

煙が晴れると・・・

円堂「はあはあはあ。」

止めていた。

秋「円堂くん・・・。」

如月（なんて・・・精神力・・・。これが・・・世界のゴールキーパー・・・円堂守！！！！）

彗星（少しはやるようだな・・・円堂守。）

試合が同点で終わる。

鬼道「・・・入学式から相変わらず無茶する奴だな・・・。おかげでヒヤヒヤした。」

円堂「へへ・・・！」

如月・夢見「それでは、合格者を発表する。」

如月「合格者、豪炎寺修也、風丸一郎太、吹雪士郎、円堂守……以上だ。」

円堂「やった……！でも……。」

一之瀬「いいよ、円堂。いい試合が見れた。」

円堂「一之瀬！！」

一之瀬「……秋。」

秋「一之瀬くん？」

一之瀬「俺、またアメリカに行って強くなるよ。」

秋「一之瀬くん……！！」

円堂「一之瀬……。」

一之瀬「それじゃあ、ね。」

空気を読み、去っていった。

夢見「合格者、鬼道有人、佐久間次郎、不動明王、飛鷹征矢、基山ヒロト……えっとどうするかな……？キーパー不足してるし……。」

源田「お願いします！入れてください！」

佐久間「俺からもお願いします！！」

鬼道「源田を入れてやってください！！」

基山「キャプテン、お願いします！！」

飛鷹「お願いします！」

夢見「……、わかった。」

佐久間「良かったな！源田！！」

源田「ああ、ありがとう、佐久間、鬼道、基山、飛鷹！」

鬼道「それにくらべ……不動は……。」

不動「鬼道クン、それに源田クン……よく受かったな。」

鬼道「黙れといっただろう!!」

不動「鬼道クンは妹がいないからダメかと思ったよ。」

鬼道「不動ォ・・・!」

不動「ははは、怖い怖い。」

鬼道「次言ったらただですませるか!!」

円堂「よし!皆!!サッカーやろうぜ!!」

豪炎寺「またそれか。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6606y/>

イナズマイレブン高校サッカー

2011年11月20日21時40分発行